

2025.10.18 Sat. — 11.9 Sun.

建築コミュニケーション

Link

Archi
Scape



文化庁による建築イベントが今年初開催！
全国各地の建築祭の魅力と意義を伝え、つながりを広げる新しい試み



問い合わせ先

LinkArchiScape PR担当

山路 (yamaji@tankpr.jp / 090-6794-6663)

神田 (kanda@tankpr.jp / 080-1462-9966)

北嶋 (kitajima@tankpr.jp / 090-4723-3742)



文化庁はこのたび、2025年10月18日(土)から11月9日(日)まで、京都市内の複数会場にて「LinkArchiScape—建築ツーリズムをつなぐ」を開催いたします。

近年、近現代建築や歴史的建築を期間限定で公開する「建築祭」が全国各地で開催され、地域の文化資源を再発見する新たなムーブメントとして注目を集めています。

本イベントでは、建築祭展・アート展・トークイベントを通じて、建築祭が持つ魅力と意義を広く発信し、その輪をさらに広げていくことを目指します。

タイトル	LinkArchiScape—建築ツーリズムをつなぐ
会期	2025年10月18日(土)–11月9日(日)
会場	立誠自治会館(立誠ガーデン ヒューリック京都 1F) 京都府立陶板名画の庭 重信会館 東本願寺視聴覚ホール(新参拝接待所)
主催	文化庁
共催	京都モダン建築祭実行委員会
協力	京都府、京都市
企画・制作	株式会社 KYO-ZON

全体の問い合わせ



Information

文化庁
「全国各地の魅力的な文化財活用推進事業」事務局
LinkArchiScape担当

TEL 03-3553-2222(平日10:00–18:00)

E-mail infolas@bunkazai-katsuyo.jp

* 本事業は、株式会社ADKマーケティング・ソリューションズに
応募受付等の業務を委託しております。

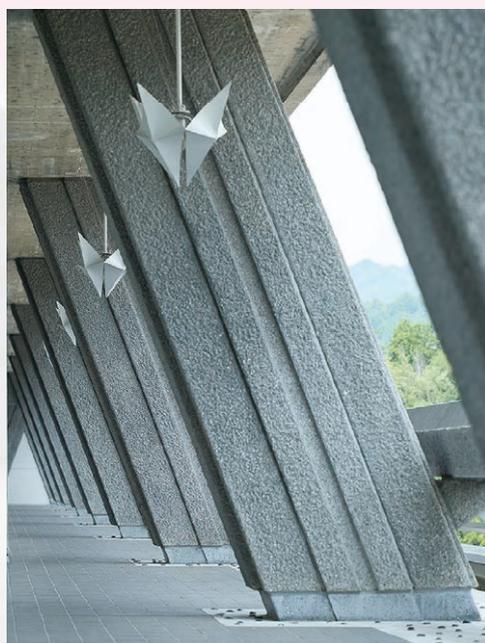
建築祭展 | Archi Festival Exhibition



提供：ヒューリック株式会社

本展は、全国各地の建築祭と出会うための「ウインドウ」です。全国の建築祭を紹介するとともに、なかでも4つの建築祭(京都モダン建築祭、なめりかわ建物フェス、ひろしま国際建築祭、マツモト建築芸術祭)にフォーカスします。京都の文化を支えた元番組小学校でもあり日本映画原点の地でもある「立誠ガーデン ヒューリック京都」(旧立誠小学校)を会場に、各地域の建築の写真をもとにデジタルデバイスを用いたインタラクティブな展示を行います。

期間 2025年10月18日(土)–11月9日(日)
会場 立誠自治会館(立誠ガーデン ヒューリック京都 1F)
時間 11:00–19:00
休み なし
入場料 無料



国立京都国際会館(設計:大谷幸夫、1966年) | 京都モダン建築祭



養照寺(設計:宮大工 岩城庄之丈、1916年) | なめりかわ建物フェス



神勝寺 松堂(設計:藤森照信、2014年) | ひろしま国際建築祭



まつもと市民芸術館(設計:伊東豊雄、2004年) | マツモト建築芸術祭

アート展 | Art Exhibition



重信会館

本展では、京都の特徴ある建築空間を会場に、6名のアーティストによる展覧会を開催します。通常、作品は美術館やギャラリーといったホワイトキューブで展示されることが一般的ですが、本展では、安藤忠雄氏が設計した世界初の屋外絵画庭園である「京都府立陶板名画の庭」や竹内緑氏が設計した「重信会館」といった建築の内部に作品を展示することで、アート作品と建築が対話する空間を生み出します。従来とは異なる視点から建築を見つめ直し、作品を通じて建築そのものに新たな発見をもたらすと同時に、建築空間に置かれた作品もまた、その空間との関係性によって、新たな視点や解釈が引き出されていきます。

期間	2025年10月18日(土)–11月9日(日)	休み	京都府立陶板名画の庭 10月25日(土)、26日(日)、11月1日(土) 重信会館 なし
会場	京都府立陶板名画の庭、重信会館		
時間	京都府立陶板名画の庭 9:00–17:00 重信会館 10:00–17:00	入場料	京都府立陶板名画の庭 200円ほか 重信会館 無料

重信会館

小川美陽 Miyu Ogawa

1996年大阪府生まれ。写真の物質性と記録性の関係に関心を持ち、記録媒体に対し物理的加工を加えたり、身体性を持って再構築するような写真作品、映像作品を発表している。近年の主な展覧会に、グループ展「NEW ANXIETIES—TOKYO PHOTOGRAPHIC RESEARCH in Seoul」(N/A, FF Seoul、ソウル、2025)、個展「Inter-sum」(DELTA / KYOTOGRAPHIE Permanent Space、京都、2024)、個展「Story Fishing」(Gallery NEUTRAL、京都、2022)などがある。

鈴木 崇 Takashi Suzuki

1971年京都府生まれ。アメリカのThe Art Institute of Boston卒業後、デュッセルドルフ芸術アカデミー研究生としてドイツに滞在。視覚と知覚の関係性や認識のズレ、写真メディアの考察をテーマに国内外で作品を発表。近年の主な展覧会に、「BUTSUDORI モノをめぐる写真表現」(滋賀県立美術館、滋賀、2025)、「現代美術交流展 和 / Harmony」(韓国、全州、2023)、「これからの写真」(愛知県美術館、愛知、2014)、「写真の現在3:臨界をめぐる6つの試論」(東京国立近代美術館、東京、2006)他多数。

高松 威 Takeshi Takamatsu

1997年大阪府生まれ。大阪芸術大学工学学科で金属工芸を学ぶ。その後、同大学大学院へ進学。在学中より鉄を中心とした作品を発表をしてきた。卒業後は鉄を手で曲げて立体にするシリーズを継続して発表している。また作家の実験的な表現の場を自主的に作るグループ「表層」を卒業時に立ち上げ、制作、発表、観客の関係性を探る。ランシエールの分有のように境界を組み替え、制度や資本からこぼれ落ちる営為を肯定するように制作している。

田中真吾 Shingo Tanaka

1983年大阪府生まれ。火を用いた表現を軸に、ペインティングから立体、インスタレーション作品を発表。火は、道具としての側面と制御し切れない暴力性を同時に兼ね備えていると考え、組み上げた構築物を燃やし、崩れ落ちた素材を再び組み直す行為を繰り返すことで、その両義性を等価に扱うことを試みている。近年はこの手法を展開させ、「線を引き、それを拭き取る」プロセスによって描く絵画作品など、素材や形態を横断する制作へと展開している。

長沢慎一郎 Shinichiro Nagasawa

1977年東京都生まれ。2008年より東京から南に1000km離れた東京都小笠原諸島父島で撮影を始める。無人島だった父島に最初に入植した「欧米系島民」のアイデンティティをテーマにした『The Bonin Islanders』を2021年に出版。米軍占領時代の父島に、秘密裏に持ち込まれていた核弾頭の貯蔵庫を撮影した『Mary Had a Little Lamb』を2024年に出版。いずれの写真集も「空白の23年」と呼ばれる占領時代の出来事に光を当て、意図的に忘却させられる出来事に問いを投げかけるシリーズである。2025年『Mary Had a Little Lamb』にて第49回木村伊兵衛写真賞を受賞。

京都府立陶板名画の庭

古舘 健 Ken Furudate

1981年神奈川県生まれ。コンピューターとプログラミングを基盤として、音響、映像、エレクトロニクス、テキスタイルなど多様なメディアや領域で活動。主な活動歴として、サウンドアートプロジェクト「The SINE WAVE ORCHESTRA」を共同主催(2002-)。Dumb Typeメンバー(2013-)。西陣織織元「細尾」との共同プロジェクト「Quasicrystal」(2015-)。サウンド・インスタレーション《Pulses/Grains/Phase/Moiré》(2018)にて、第22回文化庁メディア芸術祭大賞に選出。



小川美陽《MY PLANET #01》



鈴木 崇《BAU #1038》



高松 威《HANDMEDE COMPOSITION 11》



田中真吾《transitional stroke #13 (based #06)》



長沢慎一郎《Mary Had a Little Lamb》より



古舘 健《Shusu Moiré》



提供：真宗大谷派（東本願寺）

高松伸氏の名作として知られる「東本願寺視聴覚ホール」を会場に、建築祭の楽しみ方や、建築祭の意義・可能性を発信し、建築ツーリズムの未来を探ります。第1部では、広島大学で建築を学ばれ、大の建築好きとしても知られるアンガールズの田中卓志さんにスペシャルゲストとしてご登壇いただき、参加者の皆さんとともに建築祭の楽しみ方を知っていただきます。第2部では、今年5月に重要文化財に指定された「大丸ヴィラ（旧下村家住宅洋館）」（京都府京都市）の担当者や国登録有形文化財の「葉山加地邸（旧加地邸）」（神奈川県三浦郡葉山町）のオーナーとともに、建築祭の意義や可能性を伝えます。

日にち	2025年11月1日(土)	定員	300名(事前申込・定員制)
会場	東本願寺視聴覚ホール(新参拝接待所)	座席	自由
時間	13:30-15:30	申込締切	10月20日(月)17:00まで
参加費	無料		*応募者多数の場合は抽選

第1部：「アンガールズ田中さんと知る、建築祭の楽しみ方」

登壇者



田中卓志 アンガールズ



以倉敬之

合同会社まいまい 代表
京都モダン建築祭実行委員

第2部：「建築ツーリズムがつなぐ地域文化と新しい未来」

登壇者



松尾誠司

株式会社大丸松坂屋百貨店
「大丸ヴィラ」担当



武井雅子

株式会社ヨネヤマ取締役
「葉山加地邸」オーナー



モデレーター

前田尚武

ひろしま国際建築祭チーフキュレーター
京都モダン建築祭実行委員